

知って
いますか？



利根大堰付近での取組み

『利根大堰』(武蔵大橋)周辺の河川敷には、広大な自然の草原(オギ原)が広がっており、かつて生きものの宝庫だった湧水地が「たまり池」として残されています。これらの自然は、多くの野生の生きものの生息・生育空間であり、人にとっても良好な景観と癒しをもたらす空間となっています。

しかし近年、多くの車両が河川敷に侵入、道以外の場所を走行することによって、生きものの生息・生育環境が失われています。また、車両の走行による砂ぼこりや騒音は、周辺に生活する住民の皆さんにとっても安全・安心や快適な暮らしを妨げる悩みの種となっています。更に、長年の土砂の堆積によって利根川の流れの中心が偏り、治水上の対策も求められています。

現在、これらの課題を解決するため、行政や関係団体等の協力のもとで検討・合意をはかりながら、**下記エリアへの車両の侵入抑止対策**、**たまり池の保全対策**を、**河川敷の掘削による治水上の安全性の向上・湿地再生**とあわせて進めています。(下図参照)

掘削工事に伴う工事等車両の出入り、立入り規制もありますが、工事の実施および自然環境の保全・整備について、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。



利根大堰周辺の治水と環境検討会

『利根大堰』周辺では、関係団体・機関の協力のもとで、治水と環境が共存する川づくりについて検討と取組みを進めています。

<検討会メンバー>

NPO法人 熊谷の環境を考える連絡協議会 / NOP法人 ふるさと創生クラブ
全国環境保護連盟 / NPO法人 行田ナチュラルリストネットワーク
群馬県千代田町 / 群馬県明和町 / 埼玉県行田市
公益財団法人 日本生態系協会 / 水資源機構利根導水総合事業所
国土交通省 利根川上流河川事務所

利根大堰下流左岸エリアにおける取組みの概況



立入防止柵の設置



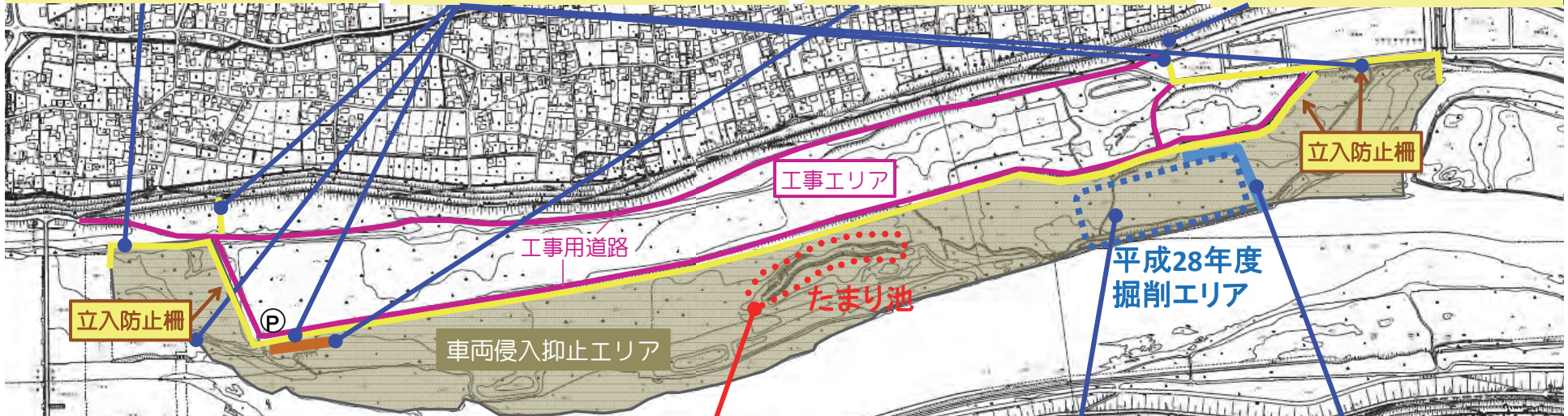
車両進入防止バリケードの設置



侵入を防止する盛土の整備



堤防法面への立入防止柵の設置



生きものも安心して暮らせる環境に

たまり池の保全

治水上の安全性確保・湿地再生

素掘り水路



ヒバリ



イソギ



ニホンアカガエル、アズマヒキガエル等の産卵場となっている他、ドジョウなども生息、湿生植物も生育しています。



車両の侵入がなくなった砂礫河原や草原では、鳥の繁殖も確認されました。

河川敷を掘削し、治水安全性の向上と湿地再生を行っています。



H27.12に掘削され、既に小魚の退避場として利用されはじめています。

